中学校歴史 単元別学習 90 問

第 9 単元 江戸時代の産業と交通 町人文化

範囲：農業と商工業／三都と交通／元禄文化と化政文化／教育と学問の広がり
用語を確かめ、出来事の順序や、暮らし・政治・文化のつながりを説明しよう。

STEP 1 一問一答 50 問

農業と生産の発達

問 1　荒れ地の開墾や干拓などで、田畑を新しく増やすことを何というか。

問 2　深く土を耕すのに使われた、刃先が数本に分かれた農具は何か。

問 3　稲の穂から、もみを効率よく外すために使われた農具は何か。

問 4　風の力を使い、もみなどと、軽いごみを分けるための農具は何か。

問 5　自家用だけでなく、売って収入を得るために育てる作物を何というか。

問 6　いわしを干して作り、購入して田畑に使った代表的な肥料は何か。

問 7　衣服などにする木綿の原料として、各地で栽培が広がった作物は何か。

問 8　種から搾った油が、明かりなどに利用された商品作物は何か。

問 9　蚕を育て、繭から生糸を得るために行う産業を何というか。

問 10　宮崎安貞が著し、農業の技術や知識をまとめた代表的な農書は何か。

商工業の発達と三都

問 11　商人が原料や道具を農家などに渡し、製品を買い上げる生産の仕組みは何か。

問 12　人々を作業場に集め、分業で手作業による生産を行う仕組みは何か。

問 13　江戸時代、同業の商人や職人がつくり、幕府から営業を認められた組織は何か。

問 14　産地から商品を仕入れ、小売商などへまとめて売る商人を何というか。

STEP 1 一問一答 50 問 続き

問 15　金・銀・銭の交換や、送金・貸付などを行った商人を何というか。

問 16　江戸・大坂・京都の三つの大都市をまとめて何というか。

問 17　将軍のおひざもとで、大名や武士が集まる大消費地となった都市はどこか。

問 18　諸藩の年貢米や各地の商品が集まり、「天下の台所」と呼ばれた都市はどこか。

問 19　朝廷のある都として、伝統的な織物や工芸品の生産が盛んだった都市はどこか。

街道と海上交通

問 20　江戸を起点に整備された、東海道や中山道などの主要な街道を何というか。

問 21　五街道の起点とされた、江戸の橋は何か。

問 22　江戸と京都を、主に太平洋側の地域を通って結んだ街道は何か。

問 23　江戸と京都を、主に内陸の山地を通って結んだ街道は何か。

問 24　街道沿いに置かれ、宿泊や人馬の引き継ぎの場となった町を何というか。

問 25　手紙や荷物を、各地へ走って運ぶことを仕事にした人々を何というか。

問 26　東北地方などから、太平洋側を通って江戸へ向かった海路を何というか。

問 27　日本海側から下関を回り、瀬戸内海を通って大坂などへ向かった海路は何か。

問 28　幕府の命を受け、東廻り・西廻りの航路を整備した商人は誰か。

問 29　大坂と江戸の間で、主に酒樽を運んだ船を何というか。

元禄文化

問 30　17 世紀後半から 18 世紀初め、上方の町人を中心に栄えた文化は何か。

問 31　江戸に対して、京都や大坂を中心とする地域を何と呼んだか。

問 32　「日本永代蔵」などを書き、町人の暮らしを描いた浮世草子の作者は誰か。

問 33　「おくのほそ道」の旅で知られ、俳諧を芸術として高めた人物は誰か。

問 34　「曽根崎心中」など、人形浄瑠璃や歌舞伎の脚本を書いた人物は誰か。

問 35　語りと三味線、人形の動きを組み合わせて物語を演じる芸能は何か。

問 36　「燕子花図屏風」など、装飾性の高い絵で知られる元禄期の画家は誰か。

問 37　「見返り美人図」で知られ、初期の浮世絵を代表する絵師は誰か。

化政文化と出版

問 38　19 世紀前半、江戸の町人を中心に栄え、各地にも広がった文化は何か。

問 39　弥次郎兵衛と喜多八の旅を描く「東海道中膝栗毛」の作者は誰か。

問 40　長い物語「南総里見八犬伝」を書いた、化政期の作家は誰か。

問 41　富士山をさまざまな場所から描いた「富嶽三十六景」の絵師は誰か。

問 42　街道の風景を描く「東海道五十三次」で知られる浮世絵師は誰か。

問 43　化政期、子どもや小さな生き物への思いを俳諧に詠んだ人物は誰か。

問 44　多くの色を重ねて刷る、色鮮やかな浮世絵の木版画を何というか。

教育と学問の広がり

問 45　町や村の子どもが、読み・書き・そろばんなどを学んだ場所は何か。

問 46　藩が設け、主に藩士やその子どもを教育した学校を何というか。

問 47　オランダ語の書物などを通して、西洋の医学や科学を学んだ学問は何か。

問 48　前野良沢らと「解体新書」を翻訳し、出版した人物は誰か。

問 49　「古事記伝」を著し、日本の古典を研究する国学を大成した人物は誰か。

問 50　全国の海岸線などを実測し、正確な日本地図の作成に尽くした人物は誰か。

STEP 2 歴史の並び替え 20 問

次のア〜エを、古い順に並べなさい。

問 1　街道と海運の発達

ア 玉川上水の工事が始まる　　イ 家光が参勤交代を制度化する
ウ 瑞賢が西廻り航路を整備する　　エ 家康が東海道の宿駅制度を整える

問 2　産業と元禄期の文化

ア 瑞賢が西廻り航路を整備する　　イ 芭蕉が「おくのほそ道」の旅に出る
ウ 西鶴の「好色一代男」が刊行される　　エ 宮崎安貞の「農業全書」が刊行される

問 3　元禄期の文学と芸能

ア 宮崎安貞の「農業全書」が刊行される　　イ 「曽根崎心中」が初演される
ウ 芭蕉が「おくのほそ道」の旅に出る　　エ 西鶴の「好色一代男」が刊行される

問 4　交通と町人の文化

ア 西鶴の「好色一代男」が刊行される　　イ 「曽根崎心中」が初演される
ウ 家光が参勤交代を制度化する　　エ 瑞賢が西廻り航路を整備する

問 5　農業の知識と米の取引

ア 宮崎安貞の「農業全書」が刊行される　　イ 瑞賢が西廻り航路を整備する
ウ 玉川上水の工事が始まる　　エ 幕府が堂島の米市場を公認する

問 6　元禄期から錦絵の誕生へ

ア 西鶴の「好色一代男」が刊行される　　イ 春信らによって錦絵が生まれる
ウ 「曽根崎心中」が初演される　　エ 幕府が堂島の米市場を公認する

問 7　絵画と学問の進展

ア 幕府が堂島の米市場を公認する　　イ 宣長が「古事記伝」を完成する
ウ 「解体新書」が刊行される　　エ 春信らによって錦絵が生まれる

STEP 2 歴史の並び替え 20 問 続き

次のア〜エを、古い順に並べなさい。

問 8　江戸後期の学問

ア 春信らによって錦絵が生まれる　　イ 「解体新書」が刊行される
ウ 忠敬が蝦夷地などの測量を始める　　エ 宣長が「古事記伝」を完成する

問 9　蘭学と測量

ア 忠敬が蝦夷地などの測量を始める　　イ 「解体新書」が刊行される
ウ 忠敬らの実測による全国図が完成する　　エ 宣長が「古事記伝」を完成する

問 10　旅の文学の移り変わり

ア 「曽根崎心中」が初演される　　イ 「北斎漫画」初編が刊行される
ウ 「東海道中膝栗毛」初編が出る　　エ 芭蕉が「おくのほそ道」の旅に出る

問 11　測量と化政期の出版

ア 忠敬が蝦夷地などの測量を始める　　イ 「北斎漫画」初編が刊行される
ウ 忠敬らの実測による全国図が完成する　　エ 「東海道中膝栗毛」初編が出る

問 12　農業と医学と地図

ア 忠敬らの実測による全国図が完成する　　イ 宮崎安貞の「農業全書」が刊行される
ウ 幕府が堂島の米市場を公認する　　エ 「解体新書」が刊行される

問 13　西鶴から一九へ

ア 「曽根崎心中」が初演される　　イ 春信らによって錦絵が生まれる
ウ 西鶴の「好色一代男」が刊行される　　エ 「東海道中膝栗毛」初編が出る

問 14　旅と地図の歩み

ア 忠敬らの実測による全国図が完成する　　イ 家康が東海道の宿駅制度を整える
ウ 忠敬が蝦夷地などの測量を始める　　エ 芭蕉が「おくのほそ道」の旅に出る

STEP 2 歴史の並び替え 20 問 続き

次のア〜エを、古い順に並べなさい。

問 15　農書から江戸後期の学問へ

ア 「解体新書」が刊行される　　イ 忠敬が蝦夷地などの測量を始める
ウ 宮崎安貞の「農業全書」が刊行される　　エ 宣長が「古事記伝」を完成する

問 16　都市と文化の成長

ア 「北斎漫画」初編が刊行される　　イ 春信らによって錦絵が生まれる
ウ 玉川上水の工事が始まる　　エ 幕府が堂島の米市場を公認する

問 17　文学と学問の広がり

ア 「解体新書」が刊行される　　イ 宣長が「古事記伝」を完成する
ウ 「東海道中膝栗毛」初編が出る　　エ 芭蕉が「おくのほそ道」の旅に出る

問 18　元禄期から化政期へ

ア 「曽根崎心中」が初演される　　イ 春信らによって錦絵が生まれる
ウ 「東海道中膝栗毛」初編が出る　　エ 「北斎漫画」初編が刊行される

問 19　海運から測量へ

ア 幕府が堂島の米市場を公認する　　イ 瑞賢が西廻り航路を整備する
ウ 忠敬らの実測による全国図が完成する　　エ 忠敬が蝦夷地などの測量を始める

問 20　街道と出版と地図

ア 忠敬らの実測による全国図が完成する　　イ 「北斎漫画」初編が刊行される
ウ 西鶴の「好色一代男」が刊行される　　エ 家康が東海道の宿駅制度を整える

STEP 3 記述問題 20 問

理由やつながりが伝わるように説明しなさい。資料がある問題は、資料も使って考えよう。

問 1　幕府や藩が新田開発を進めたのはなぜか。米の生産と領主の収入を結び付けて説明しなさい。

問 2　備中ぐわ・千歯こき・唐箕は、それぞれ何をする農具か。農作業への効果も説明しなさい。

問 3　干鰯など、購入する肥料が広く使われると、農業と商業の結び付きはどう変わったか。

問 4　商品作物とは何か。江戸時代の例を二つ挙げ、用途も説明しなさい。

問 5　問屋制家内工業と工場制手工業の違いを、働く場所と生産のまとめ方から説明しなさい。

STEP 3 記述問題 20 問 続き

理由やつながりが伝わるように説明しなさい。資料がある問題は、資料も使って考えよう。

問 6　江戸・大坂・京都は、それぞれどのような特色を持つ都市として栄えたか。

問 7　大坂が「天下の台所」と呼ばれたのはなぜか。資料の米の動きと、お金への交換を使って説明しなさい。
資料　諸藩は年貢米を大坂などの蔵屋敷に運び、商人に売って現金を得た。

問 8　幕府が街道や宿場を整えたことは、大名や旅人、商品の移動にどう役立ったか。

問 9　資料の二つの荷物は、それぞれ主にどの方法で運ぶのが適していたか。理由を付けて説明しなさい。
資料　A：大量の年貢米を遠くの都市へ送る／B：急ぎの手紙を街道沿いの町へ送る

問 10　西廻り航路は、どのような経路で、何を運んだか。出発する海域と途中の地点、目的地を使って説明しなさい。

STEP 3 記述問題 20 問 続き

理由やつながりが伝わるように説明しなさい。資料がある問題は、資料も使って考えよう。

問 11　両替商はなぜ必要とされたか。使われた貨幣と、商取引を支える働きに触れて説明しなさい。

問 12　元禄文化はどこで、どのような人々を中心に栄えたか。西鶴と近松の作品の特徴も比べて説明しなさい。

問 13　元禄文化と化政文化を、主な時期と中心となった地域から比べて説明しなさい。

問 14　木版印刷の発達は、本や浮世絵が多くの人に広まることにどう役立ったか。

問 15　寺子屋と藩校は、主な学ぶ人や内容がどのように違ったか。

STEP 3 記述問題 20 問 続き

理由やつながりが伝わるように説明しなさい。資料がある問題は、資料も使って考えよう。

問 16　蘭学と国学は、主に何を手がかりに何を研究したか。「解体新書」「古事記伝」を使って説明しなさい。

問 17　発展　「武士は身分が高かったので、どの商人よりも必ず裕福だった」といえるか。資料から考えて説明しなさい。

資料　武士の収入は米が中心だったが、日用品はお金で買った。商業や金融で大きな富を得る商人も現れた。

問 18　発展　「商品作物や購入する肥料が広がれば、すべての百姓が必ず豊かになった」といえるか。資料を使って説明しなさい。

資料　作物を売って収入を増やせる一方、肥料などを買う費用がかかり、作物の売値も変動した。

問 19　発展　「鎖国体制の間は、西洋の学問を取り入れることがまったくなかった」といえるか。資料を使って説明しなさい。

資料　長崎を通してオランダ語の書物などが入り、杉田玄白らは人体の解剖図などを載せた本を翻訳した。

問 20　発展　「江戸時代の文化は三都だけのもので、地方の人々には関係がなかった」といえるか。資料を使って説明しなさい。

資料　町や村に寺子屋が広がった。地方でも俳諧が楽しまれ、人々は旅を通して名所を訪れ、各地の祭りや芸能も受け継いだ。

解答 STEP 1 一問一答

表記が異なっていても、同じ内容を正しく示していれば正解とします。

番号	解答	番号	解答
1	新田開発	26	東廻り航路
2	備中ぐわ	27	西廻り航路
3	千歯こき	28	河村瑞賢
4	唐箕	29	樽廻船
5	商品作物	30	元禄文化
6	干鰯	31	上方
7	綿	32	井原西鶴
8	菜種	33	松尾芭蕉
9	養蚕	34	近松門左衛門
10	農業全書	35	人形浄瑠璃
11	問屋制家内工業	36	尾形光琳
12	工場制手工業	37	菱川師宣
13	株仲間	38	化政文化
14	問屋	39	十返舎一九
15	両替商	40	滝沢馬琴
16	三都	41	葛飾北斎
17	江戸	42	歌川広重
18	大坂	43	小林一茶
19	京都	44	錦絵
20	五街道	45	寺子屋
21	日本橋	46	藩校
22	東海道	47	蘭学
23	中山道	48	杉田玄白
24	宿場	49	本居宣長
25	飛脚	50	伊能忠敬

認められる表記の例

問 2：備中鍬も可。問 3：千歯扱きも可。問 4：とうみも可。問 6：干し鰯も可。
問 12：マニュファクチュアも可。問 18：大阪も可。問 26・27：回りの表記も可。
問 29：樽回船も可。問 40：曲亭馬琴も可。問 42：安藤広重も可。

解答 STEP 2 並び替え

出来事の年代と、その前後のつながりも確認しましょう。

番号	答え	解説
1	エ→イ→ア→ウ	東海道の宿駅制度の整備（1601 年） → 参勤交代の制度化（1635 年） → 玉川上水の着工（1653 年。江戸への給水は翌年から） → 河村瑞賢による西廻り航路の整備（1672 年）
2	ア→ウ→イ→エ	河村瑞賢による西廻り航路の整備（1672 年） → 井原西鶴の「好色一代男」刊行（1682 年） → 芭蕉の「おくのほそ道」の旅（1689 年。作品の刊行年とは異なる） → 宮崎安貞の「農業全書」刊行（1697 年）
3	エ→ウ→ア→イ	井原西鶴の「好色一代男」刊行（1682 年） → 芭蕉の「おくのほそ道」の旅（1689 年。作品の刊行年とは異なる） → 宮崎安貞の「農業全書」刊行（1697 年） → 近松門左衛門の「曽根崎心中」初演（1703 年）
4	ウ→エ→ア→イ	参勤交代の制度化（1635 年） → 河村瑞賢による西廻り航路の整備（1672 年） → 井原西鶴の「好色一代男」刊行（1682 年） → 近松門左衛門の「曽根崎心中」初演（1703 年）
5	ウ→イ→ア→エ	玉川上水の着工（1653 年。江戸への給水は翌年から） → 河村瑞賢による西廻り航路の整備（1672 年） → 宮崎安貞の「農業全書」刊行（1697 年） → 堂島米市場の幕府による公認（1730 年）
6	ア→ウ→エ→イ	井原西鶴の「好色一代男」刊行（1682 年） → 近松門左衛門の「曽根崎心中」初演（1703 年） → 堂島米市場の幕府による公認（1730 年） → 鈴木春信らによる錦絵の誕生（1765 年）
7	ア→エ→ウ→イ	堂島米市場の幕府による公認（1730 年） → 鈴木春信らによる錦絵の誕生（1765 年） → 杉田玄白らの「解体新書」刊行（1774 年） → 本居宣長の「古事記伝」完成（1798 年。全巻の執筆完成）
8	ア→イ→エ→ウ	鈴木春信らによる錦絵の誕生（1765 年） → 杉田玄白らの「解体新書」刊行（1774 年） → 本居宣長の「古事記伝」完成（1798 年。全巻の執筆完成） → 伊能忠敬の第 1 次測量（1800 年）
9	イ→エ→ア→ウ	杉田玄白らの「解体新書」刊行（1774 年） → 本居宣長の「古事記伝」完成（1798 年。全巻の執筆完成） → 伊能忠敬の第 1 次測量（1800 年） → 「大日本沿海輿地全図」の完成（1821 年。忠敬の死後、弟子らが完成）
10	エ→ア→ウ→イ	芭蕉の「おくのほそ道」の旅（1689 年。作品の刊行年とは異なる） → 近松門左衛門の「曽根崎心中」初演（1703 年） → 十返舎一九の「東海道中膝栗毛」初編刊行（1802 年） → 「北斎漫画」初編刊行（1814 年）

解答 STEP 2 並び替え 続き

番号	答え	解説
11	ア→エ→イ→ウ	伊能忠敬の第 1 次測量（1800 年） → 十返舎一九の「東海道中膝栗毛」初編刊行（1802 年） → 「北斎漫画」初編刊行（1814 年） → 「大日本沿海輿地全図」の完成（1821 年。忠敬の死後、弟子らが完成）
12	イ→ウ→エ→ア	宮崎安貞の「農業全書」刊行（1697 年） → 堂島米市場の幕府による公認（1730 年） → 杉田玄白らの「解体新書」刊行（1774 年） → 「大日本沿海輿地全図」の完成（1821 年。忠敬の死後、弟子らが完成）
13	ウ→ア→イ→エ	井原西鶴の「好色一代男」刊行（1682 年） → 近松門左衛門の「曽根崎心中」初演（1703 年） → 鈴木春信らによる錦絵の誕生（1765 年） → 十返舎一九の「東海道中膝栗毛」初編刊行（1802 年）
14	イ→エ→ウ→ア	東海道の宿駅制度の整備（1601 年） → 芭蕉の「おくのほそ道」の旅（1689 年。作品の刊行年とは異なる） → 伊能忠敬の第 1 次測量（1800 年） → 「大日本沿海輿地全図」の完成（1821 年。忠敬の死後、弟子らが完成）
15	ウ→ア→エ→イ	宮崎安貞の「農業全書」刊行（1697 年） → 杉田玄白らの「解体新書」刊行（1774 年） → 本居宣長の「古事記伝」完成（1798 年。全巻の執筆完成） → 伊能忠敬の第 1 次測量（1800 年）
16	ウ→エ→イ→ア	玉川上水の着工（1653 年。江戸への給水は翌年から） → 堂島米市場の幕府による公認（1730 年） → 鈴木春信らによる錦絵の誕生（1765 年） → 「北斎漫画」初編刊行（1814 年）
17	エ→ア→イ→ウ	芭蕉の「おくのほそ道」の旅（1689 年。作品の刊行年とは異なる） → 杉田玄白らの「解体新書」刊行（1774 年） → 本居宣長の「古事記伝」完成（1798 年。全巻の執筆完成） → 十返舎一九の「東海道中膝栗毛」初編刊行（1802 年）
18	ア→イ→ウ→エ	近松門左衛門の「曽根崎心中」初演（1703 年） → 鈴木春信らによる錦絵の誕生（1765 年） → 十返舎一九の「東海道中膝栗毛」初編刊行（1802 年） → 「北斎漫画」初編刊行（1814 年）
19	イ→ア→エ→ウ	河村瑞賢による西廻り航路の整備（1672 年） → 堂島米市場の幕府による公認（1730 年） → 伊能忠敬の第 1 次測量（1800 年） → 「大日本沿海輿地全図」の完成（1821 年。忠敬の死後、弟子らが完成）
20	エ→ウ→イ→ア	東海道の宿駅制度の整備（1601 年） → 井原西鶴の「好色一代男」刊行（1682 年） → 「北斎漫画」初編刊行（1814 年） → 「大日本沿海輿地全図」の完成（1821 年。忠敬の死後、弟子らが完成）

解答 STEP 3 記述問題

模範解答は一例です。同じ意味を正しく説明できていれば正解とします。
「採点のポイント」を満たすか確認し、足りない言葉を自分の解答に加えよう。

問題	模範解答	採点のポイント
問 1 新田開発	田畑を増やして米などの生産を多くし、年貢を納める土地を広げるためである。領主は年貢の収入を増やし、財政を支えようとした。	耕地・生産量の増加と、年貢収入の増加を結び付ける。
問 2 農具の役割	備中ぐわは土を深く耕し、千歯こきは稲の脱穀をし、唐箕は風で実とごみなどを分ける。作業を効率よく行い、人手や時間を減らすことにつながった。	耕作・脱穀・選別の違いと、農作業の効率化を示す。
問 3 肥料と売買	百姓が肥料を買うために現金を必要とするようになり、農産物を売って収入を得る動きが広がった。漁業や肥料を扱う商人とも結び付いた。	肥料を買うための現金と、農産物の販売や商人との取引を結び付ける。
問 4 商品作物	主に売って収入を得るために育てる作物である。例えば綿は木綿の衣服などの原料となり、菜種は明かりなどに使う油の原料となった。	販売を目的とすることを示し、二つの作物と用途を対応させる。
問 5 二つの生産方法	問屋制家内工業は、商人が原料などを渡し、農家などが自宅で生産した。工場制手工業は、人々を一つの作業場に集め、分業して手作業で生産した。	各家での生産と、作業場に集めて行う手作業による分業を区別する。
問 6 三都の特色	江戸は幕府のある政治の中心で、大名や武士が集まる消費地となった。大坂は米や商品の流通と商業・金融、京都は朝廷や伝統的な工芸・文化の中心として栄えた。	江戸の政治・消費、大坂の商業・流通、京都の伝統産業・文化を示す。
問 7 大坂と年貢米	全国の諸藩の年貢米や各地の特産物が大坂に集まり、売買されたためである。米を現金に換える商業や金融も発達し、全国の流通の中心となった。	米・商品の集積と売買、現金への交換を、全国的な流通・金融の中心と結び付ける。

解答 STEP 3 記述問題 続き

問題	模範解答	採点のポイント
問 8 街道と宿場	参勤交代などの移動を支え、宿泊や人馬の引き継ぎをしやすくした。その仕組みは、旅人の往来や商品の輸送、情報の伝達にも役立った。	宿泊・人馬の引き継ぎと、大名・旅人・商品などの移動を結び付ける。
問 9 陸路と海路	A は一度に多くの荷物を運べる船が適していた。B は街道や宿場を使って運ぶ飛脚が適していた。荷物の量や目的に応じ、海路と陸路が使い分けられた。	大量の米は船、街道沿いへの急ぎの手紙は飛脚とし、輸送量や目的の違いを示す。
問 10 西廻り航路	東北地方などの日本海側の港から下関を回り、瀬戸内海を通って大坂などへ向かった。年貢米や各地の商品を大量に運び、地域と都市を結び付けた。	日本海側・下関・瀬戸内海・大坂という経路と、米や商品の輸送を示す。
問 11 両替商の役割	金・銀・銭などが使われ、地域や取引によって使う貨幣も異なったため、交換が必要だった。両替商は送金や貸付なども行い、商取引を支えた。	異なる貨幣の交換と、送金・貸付などの金融の働きを示す。
問 12 元禄文化	京都・大坂などの上方の町人を中心に栄えた。西鶴は小説で町人の暮らしを描き、近松は人形浄瑠璃などの脚本で人々の感情や社会との関係を描いた。	上方の町人という担い手と、西鶴の小説・近松の脚本の違いを示す。
問 13 元禄と化政	元禄文化は 17 世紀後半から 18 世紀初めの上方を中心に栄えた。化政文化は 19 世紀前半の江戸を中心に栄えた。どちらも町人の経済力や暮らしを背景とした。	元禄期の上方と化政期の江戸を、時期と地域の両面で区別する。
問 14 出版と浮世絵	版木から同じ内容を何枚も刷ることができ、一つずつ手で写すより多くの本や絵を作れた。販売や貸本などを通して、より多くの人が読んだり見たりできた。	同じ内容を多数作れることと、販売・貸本などによる読者や鑑賞者の広がりを示す。

解答 STEP 3 記述問題 続き

問題	模範解答	採点のポイント
問 15 寺子屋と藩校	寺子屋では町や村の子どもが、読み・書き・そろばんなど生活や商売に役立つことを学んだ。藩校では主に藩士やその子どもが、儒学など武士に必要な学問を学んだ。	町や村の子どもと武士の教育を区別し、それぞれの主な学習内容を示す。
問 16 蘭学と国学	蘭学はオランダ語の書物などから西洋の医学や科学を学び、「解体新書」の翻訳につながった。国学は日本の古典を研究し、宣長は「古事記伝」を著した。	蘭学の西洋の学問と、国学の日本の古典研究を、それぞれの書物と対応させる。
問 17 身分と経済力	いえない。武士は米を売って生活費を得る必要があり、米の売値や支出によっては生活が苦しくなった。商業や金融で富を得た商人もおり、身分と経済力は常に一致しなかった。	武士の米の収入と現金支出、商人の経済力を挙げ、身分と豊かさを区別する。
問 18 農業と負担	いえない。販売で収入を増やせる人がいる一方、肥料の購入費や売値の下落などで、負担や借金が増す場合もあった。利益も危険もあり、暮らしへの影響は同じではなかった。	販売による収入増加と、費用・価格変動などの負担の両面を示す。
問 19 海外情報と学問	いえない。長崎などを通して西洋の書物や知識が入り、蘭学が発展した。「解体新書」の翻訳のように、入ってきた知識を調べ、日本語で学べる形にする努力も行われた。	長崎を通した知識の流入と、蘭学・翻訳などによる受け入れを具体的に示す。
問 20 文化の広がり	いえない。地方でも学びや俳諧、旅などを通して文化に参加し、祭りや芸能など各地の生活文化を育てた。文化は都市から広がるだけでなく、地方の人々にも支えられた。	寺子屋・俳諧・旅・祭りなどの例から、地方での参加や生活文化の発展を示す。